

Mado 窓



患者支援センター部の 最近の活動状況について

患者支援センター部
部長 東原 正明

広報誌『窓』は、患者支援センター部の前身である総合相談部のニューズレターとして、平成2年12月に創刊され、平成9年からは北里大学病院病診連携室が発行を担当しました。平成18年度に病診連携室が患者支援センター部内で業務を継続することになったのを機に、発行元が患者支援センター部になり、原則隔月で平成20年11月の84号まで刊行を継続してきましたが、諸事情により、一時中断させて頂いておりました。この度、再発行の運びとなりましたので、これからも、この『窓』を通して、北里大学病院の活動の詳細を広報させていただきたいと思っております。

本号では、表紙を使用させて頂き、患者支援センター部の最近の活動状況を紹介いたします。

患者支援センター部の理念は、「患者およびその家族・地域住民のための、適切でより良い療養生活中心の包括的な援助」と「地域医療と医療・保険・福祉の統合の推進」です。この理念に基づき、現在、ソーシャルワーカー（SW）6名、看護師7名（がん専門看護師（CNS）1名を含む）、事務職4名で、日々の業務をこなしています。新病院開院（平成25年）後の業務を見据えて、業務内容の充実をはかっていますが、本部署の構築・強化すべき業務は、従来の業務内容に加え、患者支援センター部の院内外への広報、情報・メディアへのアクセスを図る場としての機能の充足、地域関連機関との連携、在宅医療サービスの拡大などです。

本部署の現在の業務は、1）SW業務、2）看護業務、3）在宅医療サービス業務、4）地域がん診療連携拠点病院・総合支援センター業務、5）ボランティア支援業務、6）教育広報業務、7）苦情相談業務、8）病診連携業務より構成されます。

SW業務の相談内容内訳は「退院計画」が2/3を占め、そのなかの過半数が「転院援助」です。平成18年より「SWの病棟担当制の強化」を開始し、主要病棟での患者退

院方針決定に加わってきました。平成20年度の看護部相談業務は延べ約5,000回で、病棟からの退院調整依頼が多く、月平均110件でした。退院3ヶ月後も訪問看護の継続が必要な場合は、近隣の訪問看護ステーションに移行して頂いています。在宅医療サービス委員会は院内多職種から構成され、月一回開催しています。在宅医療のニーズが深まるなか、地域関連病院や開業医の先生方との連携も視野に入れ、業務内容の充実を図りたいと考えております。

平成19年4月に当院が地域がん診療連携拠点病院の認定を取得したのを機に、SW、CNS、事務職員が相談員の役を兼任しています。平成21年10月より、月1回の第3金曜日の午後に3時間余、『がんサロン』を開催しております。本誌に詳細を記載しております。平成20年度ボランティアの通算登録者数は1,026名（平成19年度は996名）でした。新規ボランティアの登録窓口を務め、ボランティア会の活性化ならびに自主性を図っています。平成20年度は4名の方々が社会福祉活動推進功労者として表彰を受けました。

平成15年4月に患者相談窓口を開設して7年目になります。平成20年度中に、病院長に報告した苦情報告件数は82件で前年度比44%減少しています。一次対応のみで解決される案件が増えたためと考えております。毎年、苦情原因として、接遇（言葉・態度）に対する苦情が過半数を占めています。

終わりに、病診連携業務ですが、平成20年度の患者紹介率は、医療法上・診療報酬上ともに3～4%の伸びを示しています。北里大学病院は、今後さらに、相模原市医師会、地区病院協会との医師交流を推進させ、患者紹介・逆紹介の連携をおこなう必要がありますが、その支援業務は重要であると考えております。

（ひがしはら まさあき：血液内科学 教授）

PET-CT導入のお知らせ



放射線科 浅野 雄二

北里大学病院では平成21年10月よりPET-CTを導入し、保険診療を開始しております。連携医療機関様にも共同利用していただきますようお知らせ致します。

PET (Positron Emission Tomography: 陽電子放出断層撮影)とは陽電子 (Positron) を出す物質 (陽電子放出核種) を含んだ薬 (放射性医薬品) を注射し、体内から出る放射線を検出、画像化し、病気を診断する検査方法です。PET-CTはこの陽電子を検出するPET専用機にCTが搭載された機器です。CTを同時に撮影することで放射線がでている部位が解剖学的にどこなのか、CTで異常所見がある部位に放射性医薬品が集まっているか否か、またどのくらい集まっているかを評価することによって、病気の性質や病勢の診断、治療効果判定に用いられます。腫瘍診断の目的のPET検査で現在 (平成22年3月1日)、保険診療が認められている放射性医薬品は¹⁸F-FDGのみです。¹⁸F-FDGはブドウ糖と類似した構造で、ブドウ糖をよく消費する癌細胞に集まります。しかし、ブドウ糖をあまり消費しない癌細胞は¹⁸F-FDGが集まりにくいので診断の有用性は低いと考えられていました。そのため以下に示すようなブドウ糖をよく消費するような¹⁸F-FDGがよく集まる癌に対してのみこれまで保険適応が定められていました。しかし2010年3月5日の診療報酬の改定で以下のように適応が改定されました。

2010年3月以前 ¹⁸F-FDG による癌診断の保険適応の概略

1.肺癌 2.乳癌 3.大腸癌 4.頭頸部癌 5.脳腫瘍
6.悪性リンパ腫 7.悪性黒色腫 8.食道癌 9.子宮癌
10.卵巣癌 (1~10に関しては他の検査、画像診断により病期診断、転移・再発の診断が確定できない症例) 11.膵癌 (腫瘍形成性膵炎との鑑別が困難な症例) 12.転移性肝癌 (他の検査、画像診断により転移性肝癌の診断の存在を疑うが、原

発巣が不明な症例) 13.原発不明癌 (リンパ節生検、画像診断等で転移巣が疑われ、かつ、腫瘍マーカーが高値を示す等、悪性腫瘍の存在を疑うが、原発巣が不明な症例)

2010年3月5日の診療報酬の改定

悪性腫瘍 (早期胃癌を除く.):他の検査、画像診断により病期診断、転移・再発の診断が確定できない患者に使用する。

この改訂によりこれまで保険適応がなかった悪性腫瘍に対しても保険診療が可能になり、今後は悪性腫瘍の病期診断、転移・再発の診断に¹⁸F-FDGによるPET検査は非常に重要な検査となることが考えられます。

検査を受けていただくにあたり患者様に注意することは、検査前は絶食となることです。血糖値が高い時にはブドウ糖が体内に多く分布しているため、その状況下で¹⁸F-FDGを注射しても、癌が¹⁸F-FDGを消費しにくいいため、癌に¹⁸F-FDGが集まらず、診断能が低下するためです。

PET-CTに関する検査の依頼等、ご不明な点は患者支援センターにお問い合わせください。

すでに連携医療機関様より患者支援センターを通じて、ご紹介頂き行っている骨シンチやガリウムシンチなどは、ガンマ (γ) 線という放射線を出す物質を含んだ薬 (放射性医薬品) を用いた核医学検査です。PETも骨シンチなどとは種類は異なりますが、放射性医薬品を用いる検査のため、核医学検査です。従来の核医学検査に加え、PET-CT導入により近隣の連携医療機関様にさらに有用な診療情報を提供できると考えておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

(あさの ゆうじ:放射線科 助教)

がんサロンを始めました

患者支援センター部 前田 景子

昨年10月より病院内にがんサロンがオープンしました。このサロンは、がん患者さんや家族が自分の気持ちを立て直し、前向きな気持ちで治療を受け、社会に復帰していく支援を目的としています。また、地域がん診療連携拠点病院として、患者の視点に立ったがん医療を目指すための条件ともなっています。場所は外来棟2階第1・2会議室で毎月第3金曜日の13時から16時まで開いております。このサロンは特色として、①患者・家族どうしの交流の場 ②患者・家族が情報探求を行う場 ③病気や治療に関する学習の場 ④専門職種による相談の場の4つの機能があります。事務局は患者支援センター部ですが、サロンの運営委員は、もともと有志でがん患者対象のサポートグループを企画・運営していた様々な職種（看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど）で構成されています。そしてそこにがん体験者の方々にも加わっていただき、立ち上げまでに検討を重ねて来ました。大切にしたいと思ったことは、がん患者・家族・関心のある地域の人々など誰もが自由に、そして気軽に参加できる場にしたいということでした。そのため、このサロンは予約制ではなく、出入りも自由です。当日のオープン時間内にサロンの4つの

機能を好きなように使っていただければよいのです。情報のコーナーではインターネット、書籍、パンフレットなどを用意しています。学習の場では様々な専門職種を講師として、ミニ医療講座を開いています。10月のオープン時の参加者は17名でしたが2回目は24名と増え、まだ実績は少ないですが、開催の手ごたえを感じています。参加された方からの感想は、同じ病気の人と知り合えてよかった、他の患者さんでも自分と同じような気持ちを持っているとわかり落ち着いた、受診と受診の間を前向きな気持ちで乗り切れるようになった、などの意見がありました。今後は、患者さん同士で体験談を聴く場を設けたり、癒しを目的としたプログラムなど様々な内容を企画中です。参加者の方々と接する中でスタッフとして思うのは、多くのがん患者さんはがん治療と戦っているだけではなく、不安や恐れ、ともすると絶望的になってしまう自分に対して向き合っているのだということです。サロンの存在が、少しでもそのような気持ちを持つ方々に対して安らげるような場になればと考えております。

(まえだ けいこ:患者支援センター部 ソーシャルワーカー)



内科総合外来紹介患者事前予約サービスの取扱い一部変更とインターネット窓の運用中止について

いつも当院の業務にご理解・ご協力いただきまして誠にありがとうございます。さて、以下の2項目に関して運用を一部変更させていただきますので宜しくお願い申し上げます。

【内科総合外来紹介患者事前予約サービスの取扱い一部変更について】

さて、当サービスは「内科総合外来」において、9時～10時までの間に各科3枠の病診連携枠を設定して紹介患者様を事前予約することにより診療待ち時間を短縮し、患者サービスと円滑な病診連携を目指して運用されております。従来より、予約に際しては事前予約申込書（血液内科を除く）のみFaxでご依頼を頂いておりましたが、患者様の振り分けでよりスムーズな運用をするために事前予約申込書の他に診療情報提供書も併せてFaxしていただきますようご協力お願い申し上げます。

【インターネット窓、の運用中止について】

従来より、各先生方よりご紹介頂きました患者様の受診状況等を当院のインターネット上で確認できるサービスを運用してまいりました。院内・外のウィルス感染も危惧される中、個人情報を取扱う観点より情報の漏洩も危惧されるため本年3月末を持ちまして本サービスの運用を中止させていただく事になりましたのでお知らせ致します。長らくご利用ありがとうございました。

相模原市政令指定都市移行に伴う郵便番号及び住所標記の変更について

平成22年4月1日に相模原市は政令指定都市となります。住所及び郵便番号は下記のとおりとなりますのでお知らせ致します。

現郵便番号	〒228－8555	変更後	〒252－0375
現住所標記	相模原市北里1－15－1	変更後	相模原市南区北里1－15－1



〒228-8555 神奈川県相模原市北里1-15-1
北里大学病院 患者支援センター部
TEL 042-778-9988 FAX 042-778-9599
<http://www.khp.kitasato-u.ac.jp/>
E-mail / shoukaiw@kitasato-u.ac.jp